

Action for Butterflies

チョウの舞う豊かな自然を将来へ



ツシマウラボシシジミが安定して生息できる環境作りを進めています

これまでもたびたびご紹介してきたツシマウラボシシジミですが、今も継続的に保全活動を実施しています。

ツシマウラボシシジミが依存する林床の植生は、すでにシカの食害によって島の大半で変化してしまっており、今もツシマウラボシシジミが棲むことのできる環境は、ごくわずかしか残っていません。そのため、野外での安定した生息状況を確保するためには、林床植生の存続が最優先となり、まず生息地での環境保全対策を進めることが必要となっています。

こうした状況を受けて、2015年2月に環境省の絶滅危惧種保全技術開発モデル事業によって、当協会がシカ侵入防止ネットの設置および間伐を行いました。その後、シカ防止ネットの内側では林床の環境は大きく改善し、飼育繁殖した個体の再導入を行うことによって、ツシマウラボシシジミが定着するようになりました。

しかし、約100m×15mのエリアでは面積が狭いことから、どうしても生息できる個体数には限度があり、とても安定した生息状況になったとはいえません。さらに、シカの悪影響も、周辺部ではますます顕著になっており、これまで良好だった場所でもシカの食害が目立つようになりました。そのため、シカの侵入防止ネットを、今年の1～2月にさらに2ヵ所を増設し、保全エリアの拡大を行いました。1ヵ所目は約60×8m、2ヵ所目は約180×10mで、2ヵ所あわせて600m分の柵を設置しました。設置にあたっては、長崎県の「緑といきもの賑わい事業」という、希少野生動植物の保護増殖等の事業に補助を行う制度に応募し、全体の事業費約100万円（シカのネットの材料費及び設置費）のうち半額の補助を、長崎県より受けました。また、設置場所に関しては、土地所有者の方に多大なご理解とご協力をいた

だきました。2ヵ所ともに支障なく設置できたことから、今後は食草などを補植することで、良好な環境に回復してゆくことが期待されます。

なお、ツシマウラボシシジミの保全対策は、対馬市と市民団体によっても進められています。2013年6月の再発見の後、シカ柵の設置と環境整備が2014年4月から迅速に開始され、現在も場所を拡大しながら継続されています。

これまでの保全対策の動きを合わせると、ツシマウラボシシジミの保全対策は、大きく3つのエリアで実施されており、シカ柵は合計13ヵ所になりました。保全エリアの拡大とともに、自然状態でのツシマウラボシシジミの個体数が増加することが期待されますが、エリアをどのくらい拡大すれば、生息状況が安定するのかはまだまだ未知数で、手探りでの取り組みは続きます。

本種の減少の主要因としてあげられるシカの増加については、対馬全体でシカの捕獲個体数はここ数年3,000頭を超えるなど、行政による対策は進んでいるものの、シカの密度を下げるには、まだ長い時間がかかることが予想されます。

今後は、それぞれのシカ防止柵の内部での、食草の補植など生息環境の改善や、生息状況のモニタリングを実施しながら、保全エリアの拡大を進めていく予定です。

最後に、本事業を進めるにあたっては、会員の皆様よりご寄付をいただいた寄付金を活用させていただきました。行政の補助制度には、「半額助成」などの条件がつくものも多いため、活動の自己資金が非常に重要になっています。多くの皆様からご参加・ご協力・ご支援をいただいていることに、改めて厚く御礼を申し上げます。また、引き続きご支援・ご協力のほどを、よろしく願いいたします。



2015年2月に整備した場所の様子 (2015年8月撮影)
林床の植物が繁茂してきた



同整備地で見られた幼虫
蛹化するために葉裏に移動

2016年1～2月に実施した環境保全作業



使用後のシイタケのホダ木を片付ける



ポールを立てて、ネットを張っていく



生息適地全体をネットで囲っていく



対馬市が実施している保全エリアでは、ワイヤーメッシュが使われている